



みみずく通信

京都市手話学習会「みみずく」

本部機関紙部発行

会長 石神博行

事務局 FAX 075-812-6112

みみたん通信 第64号

<http://www.mimizuku-kyoto.com/>

2025年 7月2日発行

新年度会長ご挨拶

今年度も会長としてご承認頂きました、石神です。先の総会でも申し上げましたが、私たちの京都市手話学習会「みみずく」は、コロナ禍をやっと乗り越えて、色々な取り組みがまた行えるようになってきました。また新たな方法や取り組みも加わって、益々変化・発展して行くことでしょう。

国会では、いよいよ手話に関わる法律（手話施策推進法）が法案として提出されました。手話やろう者に関わる制度が、大きく前進しそうです。

8月には、全国手話通訳問題研究会のサマーフォーラムが京都で開催されます。

そして10月には近畿ろうあ者大会が京都で開催されますし、11月には東京でデフリンピックが開幕。全国のろう者、手話関係者、また世界のろう者が集いふれあう1年となりそうです。

新しい年度も本部の運営委員会を中心に、会員お一人お一人と共に企画し、共に学び、交流し、大いに活動したいと心から思っています。

みなさま、どうか1年間よろしくお願いします。



京都市手話学習会「みみずく」

会長 石神博行

目次

- | | |
|---------------------|-----------------------------------|
| 1・・・新年度会長ご挨拶 | 7・・・「第23回京都市聴覚障害者の暮らしを考える集会」に参加して |
| 2・・・総会報告と事務局長のつぶやき | 8・・・防災学習会に参加して |
| 3・・・会計局長になりました | 9・・・吉田父子トークショーに参加して |
| 4・・・第12回ろうあ者大会に参加して | 10・・・手話通訳者試験合格おめでとう！ |
| 5・・・京都府手話サークル連絡会総会 | 11・・・みみずく山科支部創立50周年祝賀会 |
| 誰のための手話？日本手話の文法って？ | 12・・・介護職員募集のお知らせ講演会 |
| 6・・・みみずく全体研修会開催報告 | 13・・・活動助成金報告 |
| | 14・・・行事予定／編集後記 |

総会報告と事務局長のつぶやき

2025 年度も本部事務局長となりました、南支部の川合久美子です。

2024 年度初めて事務局長になって、やらなければいけない事は沢山ありましたが事務局の皆さんや運営委員の皆さんなどに助けてもらいながら 1 年間終わることが出来ました。感謝しかありません。

今年度も事務局の皆さんと協力しながら、みみずく会の皆さんが楽しく有意義なサークル活動が出来るように運営できたらと思います。

疑問や質問などは、運営委員会で話し合えるようにしていければとも思っていますので皆さんよろしくお願いします。

4 月 29 日の定期総会は、会員 325 名 出席者 53 名 委任状 218 名 計 271 名で無事に開催されました。

議長は、下京支部の一村 説子さんでした。長時間ありがとうございました。

本部事務局長 川合久美子



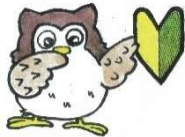
2025 年度 本部運営委員 体制

本部 役職	氏 名
会 長	石神博行
副会長	安政裕之／鈴木翔悟
事務局長	川合久美子
事務局次長	一村説子
会計局長	内井理美
会計局次長	長屋智恵子

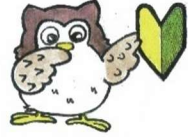
専門部	氏 名 (担当)
学習・交流	前田彩圭 (部長)
	高瀬るみ子 (会計)
	邊見淳子 片山昌子
	橋本邦子 真嶋美幸
	山岸登美子 平尾千鶴子
	山口智賀 林薫
機関紙	持田隆彦 (部長)
	嶋田早紀子 (会計)
	徳永泰子 中村清乃
	山元彩子 渡辺久美
事務局	石神博行 鈴木翔悟
	安政裕之／竹井友子 (ホームページ)
	川合久美子 一村説子
	内井理美 長屋智恵子
	岸本真奈美

委員会	氏 名
市三団体定例協議会(三団体会議)	石神博行 鈴木翔悟
	安政裕之 川合久美子
市手話言語条例施策推進委員会	石神博行 鈴木翔悟
	安政裕之 川合久美子
利用団体会議	持田隆彦 真嶋美幸
	平尾千鶴子
京都市聴覚言語障害者の暮らしを築くネットワーク委員会(市ネット)	安政裕之 竹井友子
	岸本真奈美 一村説子
	林薫 中村清乃
京都府手話サークル連絡会(京手連)	高瀬るみ子 鈴木翔悟
	徳永泰子 山岸登美子
	渡辺久美 邊見淳子
楽しいスポーツ大会	山元彩子 嶋田早紀子
	片山昌子 橋本邦子
	前田彩圭 内井理美
	長屋智恵子 山口智賀





会計局長になりました



新しく会計局長に就任しました内井理美です。「うちい りみ。Who? 誰?」という方がほとんどだと思いますが、そうなるのも当然。みみずくに入会して1年、運営委員になって初めてみみずく全体がこのように組織化され運営されているのを知ったくらいのスーパールーキーです。そんな私がなぜ、いきなり、こんな大役を担うことになったのか…。人望と会計の腕を買われて? なわけがありません。そもそも皆さん私のことをよく知らないし、この2つともそんなにあるほうではないので。じゃ、なぜか?それは私が初めて参加した運営委員会でのこと。初めてだし様子見をと思っていたのですが、なかなか明

かない埒にしびれが切れてしまいました。夜も遅くなるし、帰りたいし、じゃ私が明けるか、と声と手を挙げた次第です。

こうした経緯はともかく、総会で承認してもらい正式に会計局長になったからにはしっかり責任を全うします。皆さんから預かった大切なお金をきっちり管理していきます。といさましく決意表明をしましたが、今年度の会計局は、新人の私と、私が所属する上京支部の部ぺんぺん草のやさしく頼れる先輩の長屋さん、かなり久しぶりの運営委員というコンビなので、慣れておらずもたもたすることもあるかと思っています。温かい目で見ただけであればありがたいです。1年間よろしくお願いいたします。

上京屋の部ぺんぺん草 内井理美



今年度、内井さんを陰から支える??ために会計局次長を務めることになりました上京支部の部ぺんぺん草の長屋智恵子と申します。

上京支部の部ぺんぺん草に在籍して30年余になります。手話歴は長いのですが地元中心での活動ばかりで井の中の蛙という感じで今日までしました。

本部の方々のご苦勞にいつも感謝しておりました。

今更というのが本音ですが、本部3役は初めてで分からないことも多いので、新たに学びながら役員の皆さまと協力しながら、できる限り尽力していきたいと思っています。

一年間、どうぞよろしくお願いいたします。



上京屋の部ぺんぺん草 長屋智恵子



第12回

京都ろうあ者大会に参加して

去る4月27日(日)快晴の下、第12回京都ろうあ者大会が大江町総合会館で開催された。

北近畿鉄道大江駅から2～3分、大きな鬼瓦が出迎えてくれる会館。私達が着いた時にはもう、北部の人達が、わんさか受付、模擬店の準備で忙しく立ち働き、とにかく手話が飛び交っていた。

始まりは、会場に隙間が見られ、まだ外で準備中の人も多くいたようだが、参加人数は約300人とのこと、帰りがけのどさくさの挨拶で、実行委員だけ集めて言っておられた。

第一部は式典、この一年間の活動報告、7月の旧優生保護法にかかる訴訟において、最高裁が違憲判決を下し国に賠償命令を下した。今年の1月には、大阪府立生野聴覚支援学校の女兒の事故死をめぐる裁判も、ようやく高裁で逸失利益減額なしの全労働者の平均賃金の100%を基準とするという逆転勝訴になった報告。また、「旧優生保護法による被害者と共に歩む京都の会」を、昨年9月に結成した。被害者救済はもちろん、優生思想をなくし、全ての障害者の尊厳と権利が守られる社会実現に向けて皆さんと共に取り組んでいくと力強く表明された。



60年前、「三・三声明」が力強くされたのと重なって、私は感動していました。

今年8月の第58回全国手話通訳問題研究会～サマーフォーラム in きょうと～が京都テルサで開催されるにあたって、京都ならではの「おもてなし」を仲間と共に提供します。さらに、「東京2025デフリンピック」開催に向けてのキャラバン隊が10月5日、京都で開かれる近畿ろうあ者大会に合わせてやってくるとのこと。スポーツを通じて手話言語の理解を拡げ、共生社会の実現につなげて共に盛りあげていこう。

挨拶と報告、功労表彰、大会宣言に続いて、新しく手話通訳士・者に合格した人の紹介、そして新しく法人の職員、いこいの村や府・市の聴言センター職員に採用された人達の紹介、午後からはアトラクション、福引等々があった。

私はお昼の食事に、ちょっと遅めに模擬店に行ったので何も残ってなかったが、コーヒーを飲んでいこいの村のパンを1個食して、懐かしい人たちにお会いして、少し嬉しい気分になった一日でした。

南支部 持田隆彦

みみずく会の目的

手話を学んで、ろうあ者の良き友となり、すべての人に対する差別や偏見をなくしていくために努力し、その活動を通じて私たち自身も向上していくことを目的とする。

京都府手話サークル連絡会（京手連）総会

市センターの地域交流室にて開始された定期総会に代議員として出席しました。1年間京都府聴覚障害者協会や京都手話通訳問題研究会とともに取り組んだ事業や、主催の行事についての報告や会計報告、綾部や亀岡、城陽などの例会場の現状を聞くことができました。中には、若い世代の方が代表として来られているサークルがいくつかありましたが、やはり次の担い手探しには苦労されているようでした。まずは府下全体の仲間づくりが大切かと思いますので、みみずく会の若い会員に対して「若者連絡会（おおむね40歳以下のサークル会員の横のつながりを目的に活動しています）」が盛り上がるよう情報提供していきたいです。

サークル歴は20年を超えていますが、みみずく会のことしか知らない期間が長く、京都府下のみならず近畿の範囲にまで広げて活動している京手連のみなさんのパワーに圧倒されながら、見識を深める機会になりました。

中京支部夜の部 竹井友子

誰のための手話？日本手話の文法って？

2025年4月6日（日）京都市聴言センターにて、京都府手話サークル連絡会企画「日本手話学習会」を開催、講師は京都府立聾学校教諭の中川綾氏にお越しいただきました。

私のなかにある疑問やモヤモヤした気持ちは、中川綾氏が感じてることと一致してました。障害への理解は確かに広まっています。しかし、「本質」を問わずいつのまにか間違った認識が「あたりまえ」になってしまうと、本当に必要としている答えに辿り着けません。

聴者の手話学習を見直す良い機会でした。

山科支部夜の部 鈴木翔悟

「日本語対应手話で良い」という誤解を広めて欲しくないと言われたのが、1番印象的でした。手話は、ろう者の大切な言語であり、文化です。正しい知識を広め、多様な手話が尊重される社会を目指していけたらと思います。

山科支部夜の部 高尾真由美

日本手話と対应手話。コミュニケーションをとるためにもっと学ぶものはなにか、かなり衝撃に感じました。声にどうしても頼ってしまうけど、初心にもどって手話に集中する、文法を理解する事が基本。貴重なお話でした。

山科支部夜の部 小山通子

言葉を話ながら手話を一緒にする。話ながら手話をしている場合は、ろう者の方々は、ほとんど口を読んでいるので、とても疲れると話されてました。「誰のための手話？」この言葉の意味を、よく考えて 努力していきたいです。

山科支部夜の部 西田弘美

みみずく全体研修会開催報告

2025年2月22日（土）「2024年度みみずく全体研修会」を開催しました。この全体研修会は300人を超える会員数のみみずく会が、支部や例会場を越えて情報交換や交流を図ることを目的に毎年開催しています。また、みみずく会の目的や活動について新しい会員が学ぶ機会にもなっています。コロナ禍は規模が縮小したものの、2023年度から午前中はろう者の講演、午後には分科会の形式で開催しています。

2024年度は全体テーマを「京都市の今を学び、何ができるかを考える」と設定し、58名が参加しました。

午前中の講演では、京都市聴覚障害者協会事務局長の川本悟氏を講師に「ともに生きる共生社会とは」をテーマに聴覚障害者を取りまく京都市内の状況についてお話いただきました。講演の冒頭、川本氏からは「現実・平等・公平・公正」の状態を表したイラストが紹介されました。「平等が大切だと思っていたけど、そうじゃない」ことに気づいた参加者も多かったのではないのでしょうか。また、2016年に施行された「京都市手話言語がつなぐ心豊かな共生社会を目指す条例」（手話言語条例）から9年目を迎えて暮らしやすくなった実感はないというろう者からの声も紹介されました。

講演の後半では、みみずく会に対して「近頃は集って楽しんで解散している例会場もあるのでは？聴覚障害者協会青年部の3本柱（仲間づくり、学習づくり、要求づくり）ではないけれど、仲間を増やすことだけでなく「学習すること」も大切にしてほしい。聴覚障害者を取りまく現状について常にアンテナをはり、学び合い、いざというときにともに活動できるみみずく会であってほしい」との思いを語っていただきました。

午後の分科会は「“伝える”を意識したグループワーク（助言者：大槻弘昭氏、青木毅氏）」「おさえておきたい行事あれこれ（助言者：川本悟氏）」「お悩み解決！学習のヒントあれこれ（助言者：岡田幸美氏）」の3つのグループに分かれて実施しました。どの分科会においても、事務局のメンバーが中心となって事前打ち合わせや準備をして当日に臨んだ甲斐があり、「よかった」との感想を多くよせていただきました。参加者のみなさまにとっては普段の例会とは少し違った学習になったのではないかと思います。今回参加できなかった方、またこんな研修会があることを知らなかった方、詳しい内容は是非参加した会員の方から感想を聞いていただきたいと思います。そして、次回もよりよい企画になるよう事務局一同検討していきたいと思っています。

参加者からのアンケートをご紹介します（個人名がわからないよう一部修正）

○講演

- ・「共生社会」という言葉について考えられた。
- ・川本さんのお話は、いつもろうときこえない人ときこえる人である私が、今どのように活動していくか等、改めて認識させてもらえる。
- ・講演大変勉強になりました。周りの人とも一緒に話したいです。

○分科会

- ・ゲームを通して想像力を膨らませて表すことが大切と感じました。とても楽しみながら学べました。

- ・まず目標を決めてどんな内容で学習をするかを考えていくことが大切と感じました。
- ・初めてお会いする方が多く、色んな支部での学習内容が聞けて良かったです。
- ・支部に持ち帰り使える学習方法があり参考になった。
- ・参加者でグループワークをして、こんな行事やこんな条件があったら参加したいと思うこと意見を聞いたのが楽しかった。
- ・大変面白かったです。つたえる事、つたわる事、くみとる事すべては細かくよく見る事に始まると痛感しました。すばらしい分科会でした。
- ・映像や絵のイメージを伝えようとするのが大切だと思いました。日本語対应手話や正しい手話で表現しなければということにとらわれていたなと思いました。
- ・ろう者の方に伝わる様に、イメージをそのまま表現して伝えることの大切さを学びました。ありがとうございました。
- ・はじめからおわりまで楽しい雰囲気でもとてもよかった。ろうの方の表現力のすばらしさも見えてよかった。
- ・情報→見えるもの。これを日本語でなくて手話身振りで伝えることの難しさや楽しさをみなで学び支部で実践していこうと思いました。

参加した皆さま、ありがとうございました！

みみずく会本部事務局 竹井友子（中京支部夜の部）



「第23回京都市聴覚言語障害者の暮らしを考える集会」に参加して

2025年5月25日（日） 10:00～16:00 市聴言センター

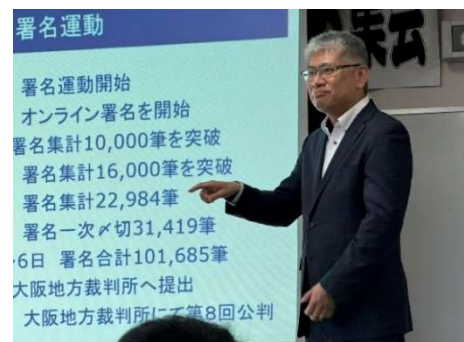
基調報告と団体ごとの活動報告のあと、長宗政男氏（大阪聴力障害者協会・会長）による講演が始まりました。

テーマは「生野聴覚支援学校女子児童事故死裁判と優生思想」

長宗氏はずっとこの被害者のご両親と共に戦ってきた。この裁判で一番問題視されたのは聴力を理由とした逸失利益の低さ。この児童の将来なんて誰にも分からないし計り知れないものなのに。この児童の母の悔しい思いや父の心の傷の深さは本当に想像を絶するものだったと思う。このことを知り同じように間違っていると思った人々から多くの署名が集まり一助を成した。

みんなで協力して活動することの大切さを改めて感じた講演でした。

午後の分科会では①優生思想について②合理的配慮（災害による配慮など）に分かれて意見を出し合った。①グループより「雨だれ石を穿つ」＝小さな事でもコツコツ続けることが大切と長宗氏の言葉が心に沁みた。



西京支部火曜日 和田智恵子

防災学習会に参加して

京都聴覚言語障害者の豊かな暮らしを築くネットワーク（府ネット）主催の防災に関する講演を見ました（聞きました）。



気象や地震に関する内容で、特に南海トラフ地震への備えの重要性を実感しました。大雨や台風による川の氾濫や土砂崩れは甚大な被害をもたらします。

以前の台風 18 号の嵐山被害を思い出し、聴覚障害のある方への連絡に苦労した経験から、定型文を準備しています。

近年注目される「線状降水帯」は、積乱雲が列をなして停滞し、大雨をもたらす現象で非常に危険です。防災アプリ「キキクル」では危険度を視覚的に確認できるので活用をおすすめします。

また、地球温暖化により 100 年で平均気温が約 2 度上昇し、猛暑日や大雨の増加が懸念されています。日本は地震多発国で、南海トラフ地震は今後 30 年以内に起こる確率が 80%とされ、京都でも震度 6 強が想定されています。津波フラッグ（赤と白）の意味も知っておく必要があります。

防災対策として、避難場所の確認、家具の固定、ハザードマップの活用などが重要です。古新聞も災害時に役立ちます。気象庁の X（旧ツイッター）公式アカウントも防災情報の入手に便利です。「自分の地域は大丈夫」と思わず、命を守る行動を考え、備えることが大切だと改めて感じました。

- ・アプリ キキクル
- ・アプリ yahoo! 防災速報
- ・X（旧ツイッター）防災情報アカウント

※津波フラッグは赤と白の格子模様は、国際信号旗の U 旗と同様のデザインである。

令和 2 年 6 月から海水浴場等で「津波フラッグ」による視覚的伝達が行われています。

聴覚に障害をお持ちの方や、波音や風で音が聞き取りにくい遊泳中の方などにも津波警報等の発表をお知らせできます。



吉田父子トークショーに参加して

3月9日（日）京都聴覚言語障害センターで 午前10時から12時30分まで
京手連主催の「吉田親子トークショー」が行なわれました。

私は親子の対談は初めてで楽しみにして参加すると、朝から大勢の人が参加されていました。あっという間に研修室の2部屋が132人で満員となりびっくりしました。

時間となり司会者が吉田親子を紹介されて、「2人にいろいろと聞きたいことがいっぱいあるのです。自己紹介・サマーフォーラム・手話サークル活動 等。」と言われました。お父さんは生い立ち・子供の頃・青年時代を過ごしたこと・家族のこと、そして仕事と、聴障協の活動・手話サークル活動等のことなど、さまざまな様子を面白く可笑しく話されていました。私は思わず笑ってしまい、横を見ると皆さんも笑いながら聞いておられました。息子さんもご自身の生い立ちや・子供の頃とか学生時代での辛かったことなど、その中でも楽しく過ごしたことをいろいろと話されていました。

お父さんはいつも仕事・聴障協・手話サークル関係の活動を両立されて忙しい日が続き家に帰る時間が遅く、お母さんと2人だけの時間を過ごした時期（子供の頃）の思い出を話す際に、ちらっとお父さんの顔を見て照れくさそうに話しておられるその姿は「親子だなあー」と思いました。

旅行にも行かれハワイや北海道などの楽しい思い出の写真が会場に置いてありました。それを見ていると嬉しい気持ちが伝わってきて私までも嬉しくなりました。

サマーフォーラム・聴障協・手話サークル活動等、以前は大勢でいろいろ活動をしていましたが、現在では人数も少なくなりその中での活動をしている。またオンライン形式が進み、便利ですけどやはり顔を合わせるコミュニケーションが大事だと思うので、集合する行事も参加して欲しいと思いを話されていました。

今日の話しを聞いていろいろな想いをもちながら親子で活動されている姿は素晴らしいと思います。今後の活躍も心から応援しています。



上京屋の部ぺんぺん草 曾根茂子



手話通訳者試験にめでたく合格されたお二人、喜びと不安、どちらが勝っているのでしょうか。未知なる手話通訳者の道。この技術でもういいってことはないし、常に技術研鑽を重ねなければならない道。

手話通訳の仕事は、技術だけではなく、知識も必要です。社会通念上の常識だけではなく、聞こえない人の暮らしから学び、一緒に活動することが必須。合格で目標達成ではなく、これからがスタート。聞こえない人との交流もなく、仲間もいない。それって、この世界では厳しいよ。合格したばかりの人に、こんなこと言ってごめん。この仕事は引退するまで勉強です。一緒に頑張りましょう！

南支部 持田隆彦



手話通訳者合格者の声



学生時代、友人に紹介されたバレーサークルで偶然ろう者の方と出会い、手話を教えていただいたことが、学ぶきっかけとなりました。

ここまで続けてこられたのは、サークルの皆様やろう者の方々のご指導・ご支援のおかげであり感謝しております。

今後は恩返しとして、みみすぐの目的であるすべての人への差別や偏見の解消に貢献できるよう、活動を通して自分にできることを考え、さらなる技術向上に努めてまいります。

南支部 山形将起

このようなスペースを設けていただき、ありがとうございます。

この度 2024 年度手話通訳者全国統一試験に合格することができました。講座の先生方はもちろん、サークルのろう者、皆さまと楽しく学ぶことができたおかげだと思っています。

これからは新鮮な気持ちで、一步一步頑張っていきたいと思います。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

中京支部屋の部 尾島美佳

みみずく山科支部創立 50 周年祝賀会



去る 5 月 25 日(土) 四条河原町の東華菜館本館において、みみずく山科支部 50 周年祝賀会が開催され、54 名(聞こえない人 9 名、みみずく会員 45 名)が集いました。

みみずく山科支部支部長 米田恵子氏と京都市聴覚障害者協会山科支部支部長 川本悟氏のあいさつの後、夜の部代表 安藤裕氏の乾杯の音頭で和やかに始まりました。

食事しながらの歓談と共に、準備していただいたたくさんのイベントも楽しみました。イベントの前半ではみみずく夜の部「ひびきちゃんのミニスピーチ&皿回し」、昼の部「マジックショー」を披露していただき楽しく賑やかに、後半の「写真を見ながら、思い出を語りましょう」では複数人の方からご提供いただいた思い出の写真とそれにまつわる懐かしいエピソードの紹介があり、古くからの方も新しい方も全員で山科支部の歩みを振り返りました。写真紹介の中で「手話を使っている人がおられたら自分から進んで手話で声かけしている」と話してくださった方もあり、日常に手話が自然に息づいている様子を思い浮かべてとても温かい気持ちになりました。



お酒・ドリンクを差しつ差されつ、ほろ酔いながらたくさん交流し、みんな笑顔の良い一日でした。今後 60 周年、70 周年さらには 100 周年に向け、これからもみんな一緒に頑張っていくことを笑顔で確認し合う場となりました。

祝賀会開催にあたり準備等に変なご尽力をいただいた皆様、本当にありがとうございました。

山科支部昼の部 伊藤千景

介護職員募集のお知らせ講演会

5月10日(土)14:00~15:00

上京総合庁舎4階のみみずく上京支部昼の部（ぺんぺん草）例会場に於いて

京都市聴覚言語障害センター介護福祉部部長の黒田様が職員募集の呼びかけの件でぺんぺん草例会にお越し下さいました。

「ぺんぺん草は会員の大半が70歳以上という高齢サークルですので職員募集の対象者は少ないと思いますが宜しいですか？」とお伝えしましたが、快く承諾して下さいました。

「今の介護実態などお話いただき私たちの学習の場にできたら良いね～」と代表や役員からの希望があり黒田様にお願いした所、快諾していただき1時間程の講演となりました。



現在、介護業界はかなり厳しい状況があるようです。

きこえの森でも職員一人ひとりの仕事がオーバーワーク状態にあり、部長自ら送迎を担っておられたり、複数の仕事を兼ねるのが日常ということです。介護を必要とする高齢者の増加もあり、介護サービスの担い手がなく、早急に求められているそうです。

介護職員の人出不足による介護難民が発生しかねません！



私も昨年まできこえの森のホームヘルプ職員だったので少なからず大変さはわかります。頭はクールでハートはあたたかい職員さんが応募して下さいることを願っています。

サークルの例会終了まで30分程あったのですが、講演後も例会学習に参加していただき嬉しく思いました。

黒田様、本来目的の職員募集以外の法人組織などの貴重なお話も語っていただきありがとうございました。

上京屋の部ぺんぺん草 長屋智恵子

法人後援会にも入って、皆で是非支えていきましょう！

活動助成金報告



<<西京支部報告>>

しいたけ狩りとバーベキューに舌鼓

2025 年 6 月 7 日（土）　しいたけ狩りとバーベキュー（高槻しいたけセンター）

当日は天候に恵まれ、充実した一日を過ごせました。

往路の電車とバスが約 60 分もあり、車内では普段顔を合わせない方や、久しぶりに会った方との手話での交流がありました。

現地ではスタッフにしいたけを上手に狩る方法の教示があり、交代で手話での説明をして、いざ収穫になりました。

しいたけ狩りが初めてという参加者がほとんどで、スーパーで見かけるよりも大きく立派なしいたけに歓声をあげながら、収穫しました。

収穫したしいたけは実費を払って受け取るシステムでした。



お土産用と昼食用に沢山のしいたけを受け取り、お楽しみのバーベキューです。

バーベキューの食材は牛カルビや野菜も豊富にあり、それぞれの手話単語を学習しながら次々と焼いていきます。

参加者は肉厚のしいたけの取りたて・焼きたてを堪能できました。



それぞれ自分で収穫したしいたけの品評をしながら帰路につきました。

西京支部火曜日　安政裕之



行 事 予 定

- 7 月 13 日（日） 和鏡作り体験と交流
8 月 8～10 日 全国手話通訳問題研究会サマーフォーラム
10 月 5 日（日） 近畿ろうあ者大会
10 月 18 日（土） 2025 ほほえみ広場
11 月 9 日（日） 2025 年度楽しいスポーツ大会
11 月 30 日（日） 手話劇を楽しむ会
2026 年
3 月 1 日（日） 耳の日記念集会

編 集 後 記

みみたん通信64号に原稿を寄せてくださった皆様、お忙しい中ありがとうございました。

この編集後記を書いているのは6月なのですが、すでに暑い日が続いております。これから、色々な行事がたくさん開催されます。皆様が楽しみにされている行事参加の際は、ぜひ暑さ対策をしっかりと取ってご参加くださいね。



7月と言えば七夕です。ああなって欲しいな・・・と考えたり感じられた色々な願いや想いを短冊にしたため、笹に吊り下げられる方もいらっしゃるかもしれません。

七夕よりも少し前になりましたが、6月18日、衆議院本会議で「手話に関する施策の推進に関する法律案（手話施策推進法）」が全会一致で可決・成立しました。

長年にわたる全国のろう者や手話に携わる人たちの活動、そして大きな願いや想いが実を結びました。

今後も、みみずく会員証の裏に記載されているみみずく会の目的にも記されているように、ろう者の良き友として今後も共に学び歩み続けられたら良いなと私自身、強く感じております。

次回のみみたん通信も皆様より楽しいご寄稿をお待ちしております♪
どうぞよろしくお願いいたします！！

中村清乃